

科 目 名		リスク認知とコミュニケーション		
学 期		A1A2 セメスタ	単位数	1.5 単位
曜 日 ・ 授 業 時 間		10 月 2 日 (水) (1, 2, 3, 4 限), 10 月 16 日 (水) (1, 2 限), 10 月 30 日 (水) (1, 2 限), 11 月 13 日 (水) (1, 2 限), 11 月 27 日 (水) (1, 2 限), 12 月 11 日 (水) (1, 2 限) 1 月 7 日 (火) (1, 2 限)		
場 所		原子力専攻講義室, オンライン講義室		
担 当 教 員	斉藤拓巳 (とりまとめ教員, saito@n.t.u-tokyo.ac.jp) 桑垣玲子 野々瀬晃平 菖蒲順子 竹田宜人 関谷直也 開沼 博			

1. 本科目の目的と学習教育目標

原子力技術の開発・利用が人間・社会との間にいかなる諸問題を生み出しているか、あるいは生み出す可能性があるか、両者の新たな関係はいかにあるべきか、それらはどのように構築していくかについて、欧米をはじめ日本においても 90 年代後半より社会学や政策科学などトランス・ディスプリナリーな視野から議論がされてきたが、2011 年 3 月の福島原子力災害は日本国民に改めて、これらの点を問いかけている。

原子力利用は、原子力施設の立地地域社会、日本社会、国際社会との間でそれぞれ質の異なったリスク問題を抱えている。それは健康リスクであったり、経済リスクであったり、政治的リスクであったりと多様であり、利害関係者の立場によって何をリスクとして認識するか、何のリスクを重大視するかも異なる。したがって原子力リスク問題への対処には、科学技術的な方策だけでなく、人々のもつ心理的要素の存在を十分認識しつつ、利害関係者間での問題認識の共有、対話、共考そして協働が求められる。

本講義では、原子力技術のもつ社会的課題への理解向上と課題対応への基礎的知識の習得を目的とし、①科学技術リスクと社会、②リスク認知、③リスクコミュニケーションとクライシスコミュニケーションを主な柱として、技術リスクの社会的ガバナンスに係る諸課題について学習するとともに、リスク心理学の基礎的知識および専門家と非専門家のリスク認知ギャップの問題の理解を深めた上で、リスクコミュニケーション活動の企業行動や規制活動における意義や技法など基本的な事項について実践事例を交えて学ぶ。

2. 講義方法等

まず、科学技術リスクと社会について、本講義の根底をなす、特徴と様相（トランスサイエンス的性質）やリスクガバナンスにおける課題を学ぶ。その後、リスク認知として、様々なバイアス要因や認知ギャップについて学習する。さらに、リスクコミュニケーション、クライシスコミュニケーションとして、その歴史的経緯や社会的背景、災害心理と災害情報について学ぶ。最後に、メディア対応と技法として、対応時の留意事項、クライシスコミュニケーション時の留意事項、噂と誤報の統制について学ぶ。

3. 専攻の学習・教育目標との関連

(1) 原子力技術分野に関する基礎的素養

原子力技術と社会の関係について、(2)および(3)に係る特徴や経緯や社会的背景を学ぶ。

(2) 原子力技術分野に関する高度の専門的知識及びこれを実務に応用できる能力

クライシスコミュニケーションやメディア対応を実践するために必要となる、リスク認知のメカニズムや災害心理学の知見、災害情報の伝達と受容や社会システムの機能を学ぶ。

(3) 原子力技術分野において、複合的な問題を分析し、課題を設定・解決できる卓越した能力

リスクコミュニケーションやメディア対応という社会と技術の界面で発生する複合問題に対して、技術と社会の関係から、リスク認知、災害心理などの知識を総合して分析を行い、そこでの課題を設

定し、解決できる能力を身につける。

(4) 継続的に学習できる能力

本講義で習得した知識を定着させ、実践するための演習として、A1A2 学期の「リスクコミュニケーション／メディア対応演習」が設計されている。

また、リスクコミュニケーションには、様々なヒューマンファクターが関わっている。そのような点は、S1S2 セメスターの「ヒューマンファクター」が本講義と関係する。また、福島第一原子力発電所事故では、リスクコミュニケーション、特に、クライシスコミュニケーションが実践された訳だが、それらについては、A1S2 学期の「福島学」、「福島学演習」で学ぶことになるが、本演習を通して、それらを理解するための知識、能力を身につけることができる。

(5) 原子力技術分野に関する実務を行うために必要な実践力、説明責任能力、コミュニケーション能力、協働力、マネジメント力など

本講義では、原子力施設の運営管理、特に、事故時におけるリスクコミュニケーションを実践するための説明責任能力、コミュニケーション能力、マネジメント力を身につけることができる。

(6) 職業倫理、ならびにその倫理規範を守りつつ職務を果たす能力と態度

本講義を通して、原子力技術における職業倫理の実践において求められる、コミュニケーションに関する理解を深めることができる。

4. 講義日程及び講義内容

I. 科学技術リスクと社会

第1回 リスク社会の様相、その特徴と源泉 (10/2 午前) (斉藤)

高度科学技術社会におけるリスク問題に関わる諸現象(リスク情報の社会的増幅、リスクトレードオフなど)を概観するとともに、技術リスクが顕在化する要因、社会的危機に至る要因などを論じる。

第2・3回 原子力のトランスサイエンス的問題群 (10/2 午前・午後) (斉藤)

コミュニケーションの欠如やトラスト不全など、原子力と社会の関係において発生するトランスサイエンスの問題を空間(世界、国内、地域)や時間、そして、他の技術との関連の点から考える。

第4回 原子力開発利用におけるリスク・ガバナンスの課題 (10/2 午後) (斉藤)

原子力開発利用に伴うリスクに係る社会的意思決定及び対応を実現するための仕組み、いわゆるリスク・ガバナンスを構成する要素を概観した上で、それらを支える社会信頼、ステークホルダー・エンゲージメントの重要性及び社会的な課題について論じる。

II. リスク認知

第5回 ヒューリスティクスと判断バイアス: 組織の意思決定 (10/16 午前) (野々瀬)

リスク認知研究から得られている主な知見を概説するとともに、人間の情報処理システムの、特定方向への偏り(バイアス)や判断のショートカット(ヒューリスティクス)などの特徴、及び集団が陥る判断の罠について、心理学的な視点から解説する。

第6回 ヒューリスティクスと判断バイアス: 情報処理とリスク認知 (10/16 午前) (桑垣)

科学技術リスクに対する社会調査研究の知見に基づき、能力・知識・時間等の制約のなかで、不確かさを含む問題の判断を行う際に、人間の情報処理にどのような特徴があるか、リスクを認知する際に重視する要、一般市民と専門家のリスク認知の違い、その要因、対話・協議やリスクマネジメントへの影響などについて論じる。

III. リスクコミュニケーション及びクライシスコミュニケーション

第7回 リスクコミュニケーション概論 (10/30 午前) (桑垣)

リスクコミュニケーションの歴史的経緯と社会的背景、リスクコミュニケーションの要諦を説明したのち、具体例を紹介しながら、リスクコミュニケーションの理論と実践について解説する。

第8回 原子力広報とリスクコミュニケーションの実践 (10/30 午前) (菖蒲)

組織としてリスクコミュニケーションにどのように関わるかを実践で経験される留意事項や、課題、取り組み例について解説する。

第9・10回 コミュニケーションのスキルと実践 (11/13 午前) (菖蒲、桑垣)

リスクコミュニケーション及び緊急時準備、クライシスコミュニケーションの実践で役立つ、メッセージの留意点、利害関係者との双方向対話やエンゲージメントにおける基本姿勢、傾聴や進行など

のスキルを学ぶ。

第 11・12 回 原子力災害と風評被害 (11/27 午前) (関谷)

災害時の人間行動について災害心理学の知見 (災害対応の類型, 避難行動に影響する人的因子, パニック神話など) について論じた上で, 災害情報の伝達と受容や社会システムの機能, クライシスコミュニケーション等について学ぶ。

第 13・14 回 メディア, 信頼回復 (12/11 午前) (開沼)

地域住民とのコミュニケーション、特に、信頼形成のためのコミュニケーションについて、実例やそこでの教訓を交えながら、学ぶ。

第 15・16 回 リスクコミュニケーション事例研究 (1/7 午前) (竹田、桑垣)

原子力及び他分野でのリスクコミュニケーション事例の特徴や課題を比較検討し, リスクコミュニケーションをデザインするための設計方法, 利害関係者分析, 対話の場の設定, 情報発信・説明内容, 質疑応答, 司会進行, 評価などについて論じる。

なお, 原子力プラント見学を本科目の一部として位置付ける。

5. 教科書, 参考書等

事前に配布する資料を用いて講義を行う。

講義に関係する必読書は以下のとおり。

- ・ 谷口武俊, リスク意思決定論, 大阪大学出版会, 2008
- ・ 平川秀幸・土田昭司・土屋智子, リスクコミュニケーション論, 大阪大学出版会, 2011
- ・ USNRC, Effective Risk Communication -NRC's Guidelines for External Risk Communication, NUREG/BR-0308

6. 達成度の評価, 成績評価の方法

課題レポートの内容で評価する。

7. 他の講義との関連

- ・ リスクコミュニケーション／メディア対応演習
- ・ 福島学, 福島学演習
- ・ ヒューマンファクター
- ・ 技術倫理演習